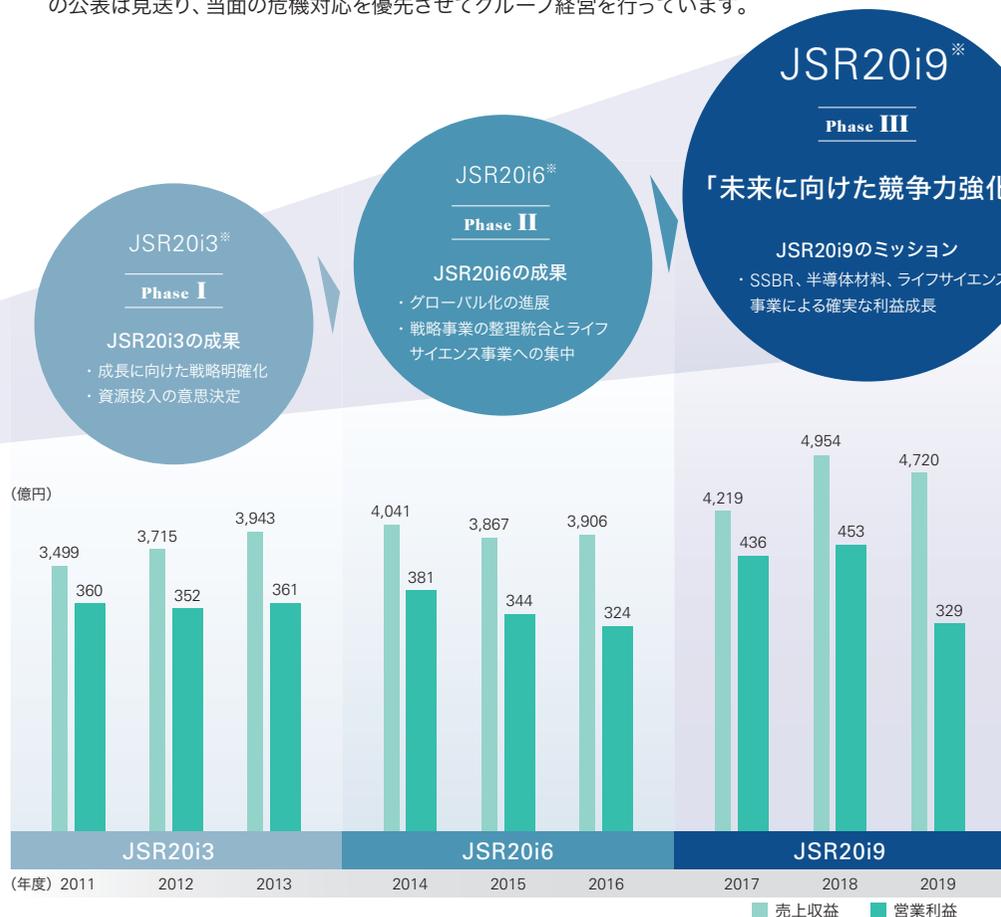


中期経営計画とサステナビリティ・チャレンジ

中計進捗と振り返り

2018年3月期(2017年度)から3カ年にわたり、“未来に向けた競争力強化”期間と位置づけ中期経営計画「JSR20i9[※]」に取り組んできた結果、半導体材料事業においては最先端フォトレジスト等が販売拡大し、ライフサイエンス事業は第3の柱へ成長、エラストマー事業では戦略製品である溶液重合スチレン・ブタジエンゴム(SSBR)が市場成長率を上回って成長しました。2020年3月期(2019年度)に「JSR20i9」が終了したことに伴い、“将来にわたる持続的成長により、ステークホルダーへの責任を果たしていく”という2050年に向けた長期ビジョン達成のための新中期経営計画の策定に取り組んできましたが、今般の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や石油化学市場が低迷している状況を鑑み、2020年度は新中期経営計画の公表は見送り、当面の危機対応を優先させてグループ経営を行っています。

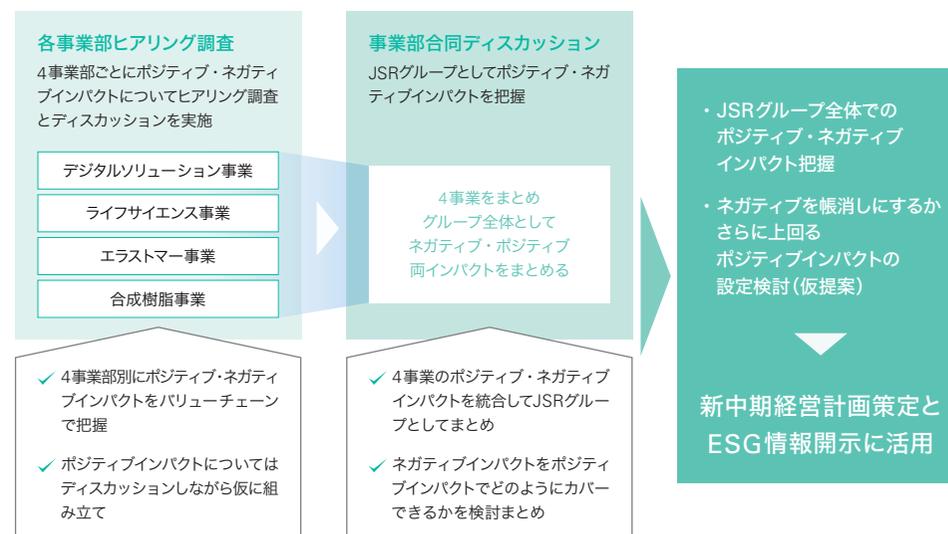


サステナビリティ・チャレンジ

新しい中期経営計画の策定にあたっては、マテリアリティ(重要課題)の見直しを検討しています。マテリアリティの見直しに際しては、2019年に実施した有識者との対話での指摘を踏まえ、「事業活動」「経営基盤」という2つの切り口に分けて再整理を進めており、「事業活動」に関してはポジティブ・ネガティブインパクトの抽出作業「JSRサステナビリティ・チャレンジ」を実施しました。

「JSRサステナビリティ・チャレンジ」では、4事業部ごとにポジティブ・ネガティブインパクトを把握するヒアリング調査をまず実施後、この調査で把握されたポジティブ・ネガティブインパクトを統合した中間レポートを作成。これをもとに事業部合同ワークショップを行いました。この事業部合同ワークショップでは、将来あるべき姿を思い描きながら、どのネガティブインパクトの削減、およびどのポジティブインパクトへの注力に取り組むべきかをディスカッションしました。なお、ポジティブ・ネガティブインパクトともに、可能な限り数値試算にも取り組んでいます。また、「経営基盤」についても、同様に実施すべく準備を進めています。

「JSRサステナビリティ・チャレンジ」実施プロセス



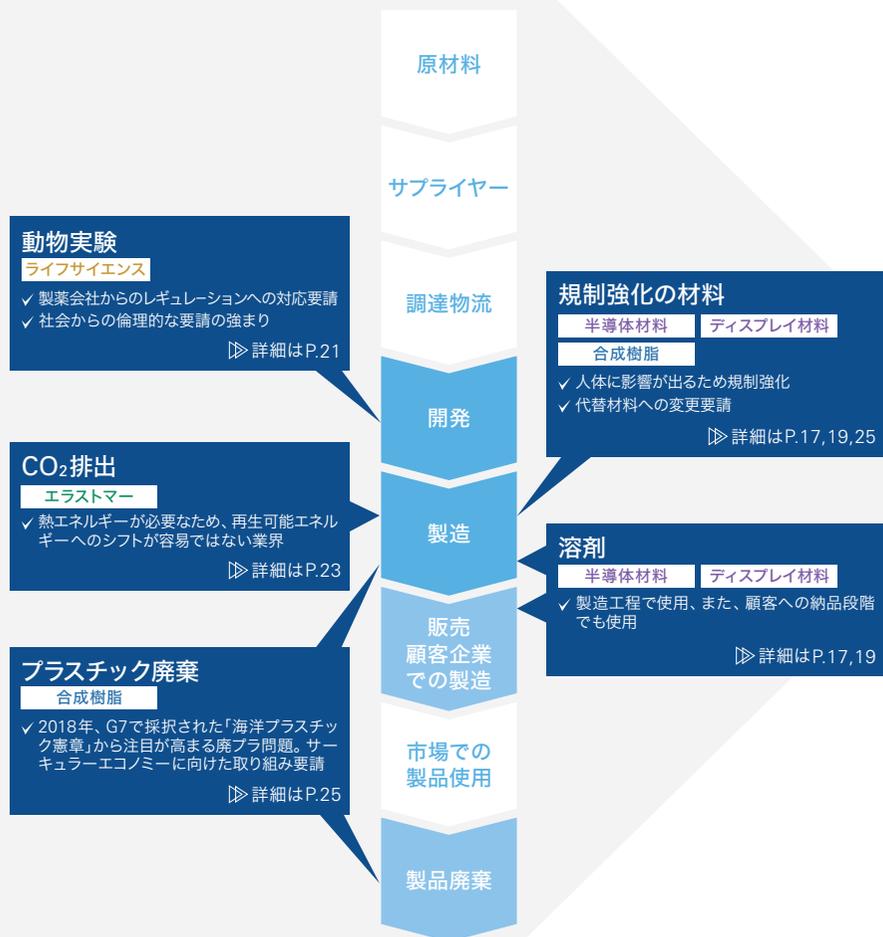
※「JSR20i3」(ジェイエスアールにせんじゅうさん)、「JSR20i6」(ジェイエスアールにせんじゅうろく)、「JSR20i9」(ジェイエスアールにせんじゅうきゅう)は、企業理念であるMaterials Innovationを実行すべく、innovationを強調して「i」を使用して表記しています。

JSRサステナビリティ・チャレンジ

JSRグループは原材料から顧客企業での製造、市場での使用、そして製品が破棄されるまでを通して社会へ様々な形でインパクトを与えています。今回のサステナビリティ・チャレンジでは、上流の研究・開発から下流の製品の破棄に至る各段階について気候変動、資源循環、デジタル変革、健康などの観点から精査を行いました。精査の結果として、「事業活動」に関して把握されたポジティブ・ネガティブインパクトを下

図のとおりまとめています。今後、この結果と未来を統合した思考の下に、2050年に向けた長期ビジョンへの制定を進めていきます。「生活の質・幸福への貢献」「健康長寿社会への貢献」「地球環境保全への貢献」という3つのアウトカムとして提供していくことで、将来にわたる持続的な成長につなげステークホルダーへの責任を果たしていきます。

ネガティブインパクト



ポジティブインパクト

デジタルソリューション ▶ 詳細はP.17,19

半導体材料
ナノ技術を高めIoT、AI、5Gのスマート社会に貢献しながら、半導体の消費電力を抑制
JSRの最先端半導体材料は小型化・高性能化をより少ない電力で達成可能より高性能なGPUの採用で**280倍の消費電力削減効果を期待できる**

ディスプレイ材料
ディスプレイの輝度UPと低温焼成を実現し液晶TVの消費電力を30%削減が可能
高性能ディスプレイ用配向膜**世界シェアNo.1**を誇るJSRでは世界のディスプレイに対するエネルギー削減効果も期待できる

ライフサイエンス ▶ 詳細はP.21

顧客企業の医薬品開発成功率向上と開発期間の短縮へ
開発・製造受託(CDMO)で、安定的に量産できるような製造技術の確立から、人での治験認可まで、**通常12~24カ月かかるところを9カ月に短縮**

エラストマー ▶ 詳細はP.23

JSRグループが製造工程で排出する温室効果ガスに対して、製品を通して2倍以上の社会の温室効果ガス削減に貢献
JSR独自の低燃費タイヤ用SSBRを通じた自動車からのCO₂削減量は、製造工程で排出されるCO₂の**2.7倍**になることが期待される

合成樹脂 ▶ 詳細はP.25

プラスチック資源循環に向けて、モノマテリアル化の推進
新素材を採用し、これまでの複合素材をモノマテリアル化することで顧客企業に貢献
高発色材による無塗装化により、易リサイクル性と溶剤削減による環境負荷低減を達成
また軽量化においても剛性を維持したまま**50%**の軽量化を提案

ポジティブインパクトによって JSRが生み出す社会価値

